

# 十和田市林道施設長寿命化計画 (個別施設計画)

計画期間

自：令和3年4月1日

至：令和13年3月31日



令和3年1月

十和田市 農林商工部

## 十和田市林道施設長寿命化計画（個別施設計画）

### 1. 基本的事項

十和田市における林道施設は昭和27年から平成元年までに24橋建設され、令和元年度末時点で供用開始から60年経過した橋は11橋となっています。

十和田市林道施設長寿命化計画は、市が管理する林道施設の長寿命化・更新等を計画的に実施することを目的としています。

### 2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙（一覧表）のとおりです。

### 3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙（一覧表）のとおりです。

### 4. 施設の優先度

本計画における優先度は別紙（一覧表）のとおりとし、点検結果により評価された施設全体の健全度のほか、利用頻度や利用計画、迂回路の有無などを考慮して決定します。

### 5. 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された施設毎の状態については別紙（一覧表）のとおりです。

### 6. 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙（一覧表）のとおり計画します。

### 7. 対策費用

施設毎の対策費用の概算については別紙のとおりです。

なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体的な工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合があります。

個別施設計画一覧表（橋梁）

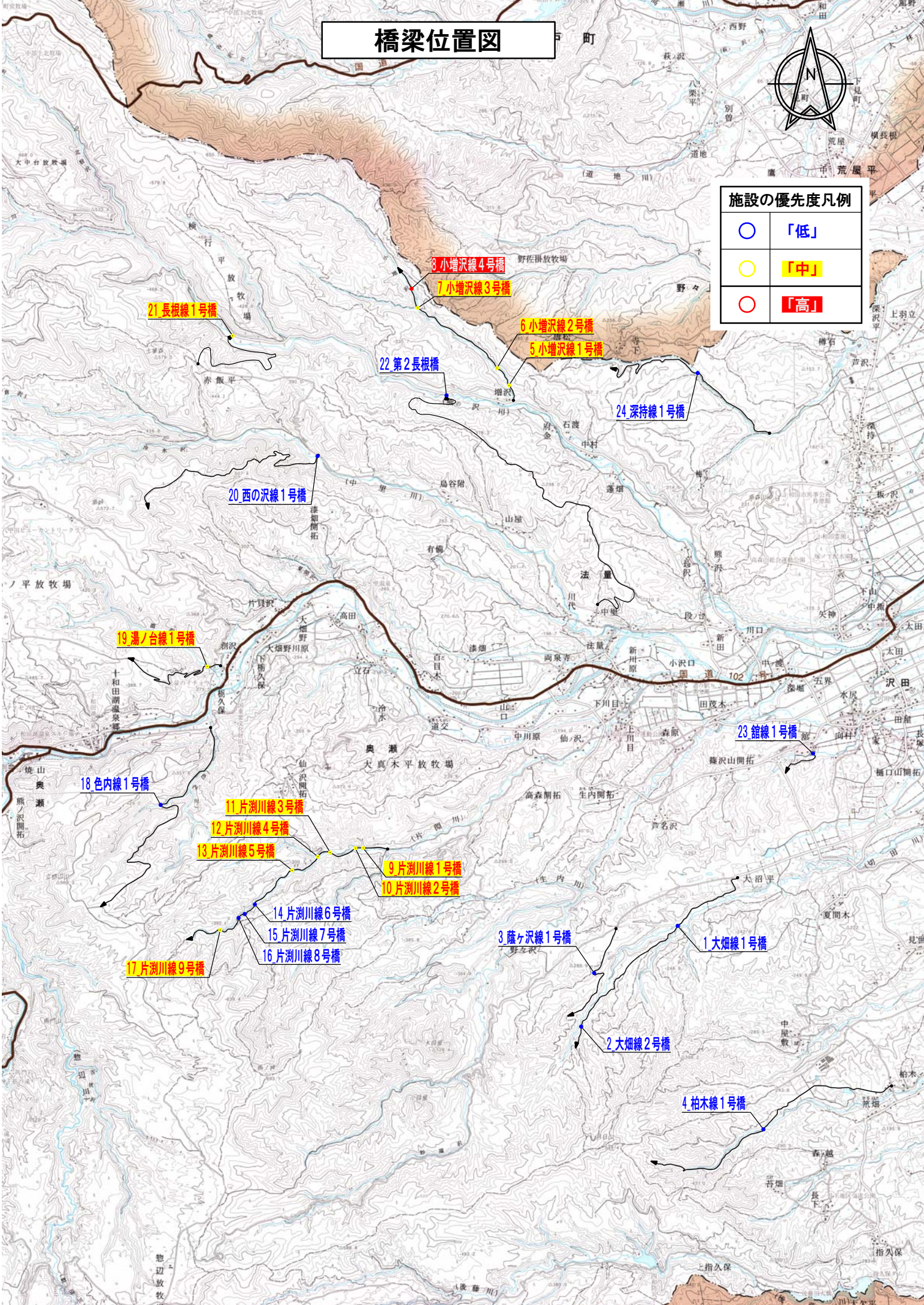
管理番号	個別施設整理番号	林道台帳索引番号	路線名	林道種類及び区分	橋梁名	所在地	起点からの距離(km)	建設年度(西暦)	供用年数(年)	種別	型式	道路橋示方書	橋格(設計荷重)	橋下条件	橋長(m)	支間長(m)	幅員(m)	車道幅員(m)	上部工形式	橋台工形式	橋脚工形式	基礎形式	海岸からの距離(km)	施設の現況			計画内容				優先度	実施年月日	措置記録				備考	
																								点検実施年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施予定時期			対策費用(概算:百万円)	内容	対策費用(百万円)	再判定実施年月日		再判定区分
																												分類	概要(数量)									
1	220101	1	大畑線	自動車道3級	大畑線1号橋	十和田市大字切田字西大沼平	1.600	1960	61	RC橋	T桁橋	不明	不明	切田川	9.5		4.0	3.6	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.10	II	主桁、床版は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
2	220102	1	大畑線	自動車道3級	大畑線2号橋	十和田市大字切田字西大沼平	4.200	1961	60	RC橋	T桁橋	不明	不明	沢	6.3		4.1	3.6	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.10	II	主桁、床版等は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
3	420201	5	薩ヶ沢線	自動車道3級	薩ヶ沢線1号橋	十和田市大字切田字西大沼平	0.900	1968	53	RC橋	床版橋	不明	不明	沢	4.0		4.1	3.7	RC床版橋	半重力式橋台	—	不明	—	R1.10.10	II	床版、下部構造は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
4	320501	7	柏木線	自動車道3級	柏木線1号橋	十和田市大字大不動字柏木	2.700	1955	66	RC橋	T桁橋	不明	不明	藤島川	5.1		3.9	3.6	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.10	II	主桁、床版等は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
5	421201	8	小増沢線	自動車道2級	小増沢線1号橋	十和田市大字深持字若狭	0.300	1967	54	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	小増沢	10.4	10.0	4.3	3.6	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.9	III	主桁、床版は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R4	27.6	中						一般管理型
6	421202	8	小増沢線	自動車道2級	小増沢線2号橋	十和田市大字深持字若狭	0.700	1967	54	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	小増沢	10.4	10.0	4.3	3.6	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.9	III	主桁、床版、支承等は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R5	28.7	中						一般管理型
7	421203	8	小増沢線	自動車道2級	小増沢線3号橋	十和田市大字深持字若狭	2.400	1967	54	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	小増沢	10.4	10.0	4.3	3.6	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.9	III	主桁、床版、支承等は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R6	29.7	中						一般管理型
8	421204	8	小増沢線	自動車道2級	小増沢線4号橋	十和田市大字深持字若狭	2.800	1967	54	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	小増沢	10.4	10.0	4.3	3.6	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.9	IV	支承は緊急措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R3	43.7	高						一般管理型
9	321001	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線1号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	0.400	1952	69	RC橋	T桁橋	不明	不明	ミツサミ沢	6.0		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.21	III	主桁、下部構造は早期措置が必要	R3~R12	更新	BOXカルバート	R9	25.6	中						一般管理型
10	321002	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線2号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	0.530	1952	69	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	8.1		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.21	III	主桁は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R10	19.9	中						一般管理型
11	321003	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線3号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	1.000	1952	69	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	8.0		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.21	III	主桁は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R11	16.4	中						一般管理型
12	321004	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線4号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	1.290	1952	69	RC橋	T桁橋	不明	不明	平ノ沢	6.0		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.11	III	主桁、床版は早期措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	中						一般管理型
13	321005	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線5号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	1.760	1953	68	RC橋	T桁橋	不明	不明	沢	6.0		4.4	4.0	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.5	III	主桁、床版は早期措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	中						一般管理型
14	321006	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線6号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	2.750	1953	68	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	7.0		4.2	3.8	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.7	III	主桁、床版は早期措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
15	321007	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線7号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	3.050	1953	68	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	7.0		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.7	III	主桁は早期措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
16	321008	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線8号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	3.180	1954	67	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	6.1		4.3	3.9	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.6	III	主桁、下部構造は早期措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
17	321009	25	片瀬川線	自動車道2級	片瀬川線9号橋	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	3.630	1954	67	RC橋	T桁橋	不明	不明	片瀬川	7.0		4.4	4.0	RCT桁橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.6	III	主桁、床版は早期措置が必要	R3~R12	更新	BOXカルバート	R12	25.6	中						一般管理型
18	220601	32	色内線	自動車道2級	色内線1号橋	十和田市大字法量字北向	1.900	1972	49	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	沢	10.4	10.0	4.7	4.0	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.11	II	主桁、支承等は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
19	321201	36	湯ノ台線	自動車道2級	湯ノ台線1号橋	十和田市大字法量字隼山	0.400	1970	51	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	湯沢川	12.4	11.9	4.8	4.1	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	R1.10.29	III	主桁、支承等は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R8	25.2	中						一般管理型
20	424701	37	西の沢線	自動車道2級	西の沢線1号橋	十和田市大字法量字林ノ上	0.010	1972	49	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	中里川	22.5	22.1	4.8	4.1	H形鋼(非合成)橋	逆T式橋台	—	不明	—	H30.11.8	II	上部工、支承は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						予防保全型
21	424801	38	長根線	自動車道2級	長根線1号橋	十和田市大字法量字相ノ窪	3.230	1989	32	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	熊の沢川	16.5	16.0	4.7	4.0	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.8	III	主桁、支承等は早期措置が必要	R3~R12	補修	断面補修等	R7	25.1	中						予防保全型
22	220701	41	第2長根線	自動車道2級	第2長根橋	十和田市大字法量字相ノ窪	7.585	1984	37	鋼橋	鋼桁橋	昭55年	一等橋(TL-20)	熊の沢川	17.5	17.0	5.0	4.0	H形鋼(非合成)橋	重力式橋台	—	不明	—	H30.11.5	II	主桁、鋼装は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						予防保全型
23	424501	33	館線	自動車道2級	館線1号橋	十和田市大字沢田字上沢田	0.015	1969	52	RC橋	床版橋	不明	不明	沢田川	3.5		3.8	3.5	RC床版橋	不明	—	不明	—	R1.8.9	II	床版、下部構造は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型
24	320101	10	深持線	自動車道2級	深持線1号橋	十和田市大字深持字梅家ノ上	1.671	1969	52	RC橋	床版橋	不明	不明	沢	3.2		4.5	4.0	RC床版橋	不明	—	不明	—	R1.9.24	II	下部構造は状況に応じて措置が必要	R3~R12	維持	-	-	-	低						一般管理型

# 橋梁位置図



## 施設の優先度凡例

○ (Blue)	「低」
○ (Yellow)	「中」
○ (Red)	「高」



※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	220101	林道台帳索引番号番号	1	施設管理者	十和田市
路線名	大畑線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	大畑線1号橋
施設の所在地	十和田市大字切田字西大沼平	起点からの距離	1.600 km	建設年度	1960年(S35)
供用年数	61年	種別	R C 橋	型式	T 桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	切田川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.5m	幅員(車道幅員)	4.0m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	R C T 桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台	基礎形式	不明
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	大畑線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画がある。 大畑線には電力施設もあるため、当該施設は頻繁に利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月10日			
	調査結果	主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出が点在し、桁下や下部構造には遊間及び排水管(床版下面とフラットの垂流し構造)からの橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始める期間で、安全性は十分確保されている状態と判断できるが、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であるが、健全性が判定Ⅱであるため。		
	対策費用(概算)	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.2					0.2	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	220102	林道台帳索引番号番号	1	施設管理者	十和田市
路線名	大畑線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	大畑線2号橋
施設の所在地	十和田市大字切田字西大沼平	起点からの距離	4.200 km	建設年度	1961年(S36)
供用年数	60年	種別	R C 橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.3m		幅員(車道幅員)	4.1m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	R C T 桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	大畑線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月10日				
	調査結果	主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出やひびわれからの遊離石灰滲出が生じ、桁下や下部構造には遊間及び水抜孔(床版を削孔した垂流し構造)からの橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始める期間で、安全性は十分確保されている状態と判断できるが、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等は一定程度あるが、健全性が判定Ⅱであるため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.2					0.2	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	420201	林道台帳索引番号番号	5	施設管理者	十和田市
路線名	蔭ヶ沢線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	蔭ヶ沢線1号橋
施設の所在地	十和田市大字切田字西大沼平	起点からの距離	0.900 km	建設年度	1968年(S43)
供用年数	53年	種別	R C橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0m	幅員(車道幅員)	4.1m(3.7m)
	施設の構造等	上部工型式	R C床版橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	半重力式橋台		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	蔭ヶ沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在する。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月10日			
	調査結果	外縁の床版にうき・剥離・鉄筋露出が生じ、桁下には水抜溝（地覆に溝を刻んだ構造）からの橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期前期（劣化現象が加速的に進行する前半期）で部材の耐荷力が低下し始める期間で、安全性は十分確保されている状態と判断できるが、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持（橋面等清掃作業）			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	低	（優先度の考え方） 利用頻度等は一定程度あるが、健全性が判定Ⅱであるため。		
	対策費用（概算）	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.2					0.2	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備 考

個別施設整理番号	320501	林道台帳索引番号番号	7	施設管理者	十和田市
路線名	柏木線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	柏木線1号橋
施設の所在地	十和田市大字大不動字柏木	起点からの距離	2.700 km	建設年度	1955年(S30)
供用年数	66年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	藤島川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.1m		幅員(車道幅員)	3.9m(3.6m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	—		落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	不明	
橋脚工型式	—			海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	柏木線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。当該施設は森林組合等により利用されている。また、林道沿いに湧水があり、地域住民の利用もみられる。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月10日					
	調査結果	主桁及び張出床版にひびわれ、うき・剥離・鉄筋露出が生じ、張出床版にはひびわれからの遊離石灰滲出が見られるとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始める期間で、安全性は十分確保されている状態と判断できるが、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。					
	健全性の診断結果	Ⅱ(予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。					
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度					
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)					
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等は一定程度あるが、健全性が判定Ⅱであるため。				
	対策費用(概算)	—					
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。						

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.2					0.2	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備考



※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	421201	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	十和田市
路線名	小増沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小増沢線1号橋
施設の所在地	十和田市大字深持字若狭	起点からの距離	0.300 km	建設年度	1967年(S42)
供用年数	54年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小増沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.3m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	小増沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 小増沢線は電力施設や国有林林道へも接続しているため、当該施設は頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月9日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う5割程度の腐食の進行が確認できる。コンクリート部材は、うき・剥離・鉄筋露出及び断面欠損が生じているとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材は、漏水等による湿潤環境の影響で腐食劣化が進行し、コンクリート部材は、中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修（断面補修等）				
	実施予定時期	令和4年度に補修調査及び補修工事の実施予定。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であり、健全性が判定Ⅲであるため。			
	対策費用(概算)	約27.6百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		6.8 20.8		0.2					0.2	
対策の内容・実施時期		補修調査 補修工事		点検					点検	

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	421202	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	十和田市
路線名	小増沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小増沢線2号橋
施設の所在地	十和田市大字深持字若狭	起点からの距離	0.700 km	建設年度	1967年(S42)
供用年数	54年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小増沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.3m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	小増沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。小増沢線は電力施設や国有林林道へも接続しているため、当該施設は頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月9日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う5割程度の腐食の進行が確認できる。コンクリート部材は、うき・剥離・鉄筋露出及び断面欠損が生じ、桁下や下部構造には橋面排水の漏水・滞水が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。また、防護柵に著しい損傷が生じ、第三者被害も懸念される。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材は、漏水等による湿潤環境の影響で腐食劣化が進行し、コンクリート部材は、中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修(断面補修等)				
	実施予定時期	令和4年度に補修調査、令和5年度に補修工事の実施予定。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であり、健全性が判定Ⅲであるため。			
	対策費用(概算)	約28.7百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		6.8	21.9	0.2					0.2	
対策の内容・実施時期		補修調査	補修工事	点検					点検	

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	421203	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	十和田市
路線名	小増沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小増沢線3号橋
施設の所在地	十和田市大字深持字若狭	起点からの距離	2.400 km	建設年度	1967年(S42)
供用年数	54年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小増沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.3m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	小増沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 小増沢線は電力施設や国有林林道へも接続しているため、当該施設は頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月9日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う5割程度の腐食の進行が確認できる。コンクリート部材は、うき・剥離・鉄筋露出及び断面欠損が生じているとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水・滞水が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材は、漏水等による湿潤環境の影響で腐食劣化が進行し、コンクリート部材は、中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修(断面補修等)				
	実施予定時期	令和5年度に補修調査、令和6年度に補修工事の実施予定。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であり、健全性が判定Ⅲであるため。			
	対策費用(概算)	約29.7百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			6.8	22.9 (0.2)					0.2	
対策の内容・実施時期			補修調査	補修工事 (点検)					点検	

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	421204	林道台帳索引番号番号	8	施設管理者	十和田市
路線名	小増沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	小増沢線4号橋
施設の所在地	十和田市大字深持字若狭	起点からの距離	2.800 km	建設年度	1967年(S42)
供用年数	54年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小増沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.3m(3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	小増沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 小増沢線は電力施設や国有林林道へも接続しているため、当該施設は頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月9日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う5割程度の腐食の進行しているとともに、A1橋台部の支承で破断が確認できる。コンクリート部材は、うき・剥離・鉄筋露出及び断面欠損が生じているとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水・滞水が確認できる。現段階で支承の破断に伴い道路橋の機能に支障が生じ、安全性が損なわれている状態(劣化期)と判断でき、緊急に通行止め等の措置を講ずる必要がある。				
	健全性の診断結果	IV (緊急措置段階)	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材の腐食は、湿潤環境による劣化が進行したもので、支承の破断は地震時の衝撃によるものと推定できる。また、コンクリート部材は、中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修(断面補修等)				
	実施予定時期	令和3年度に補修調査及び補修工事の実施予定。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であり、健全性が判定IVであるため。			
	対策費用(概算)	約43.7百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)	6.8 36.9			0.2					0.2	
対策の内容・実施時期	補修調査 補修工事			点検					点検	

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321001	林道台帳索引番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線1号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	0.400 km	建設年度	1952年(S27)
供用年数	69年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	ミツサミ沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日				
	調査結果	上部構造にうき・剥離・鉄筋露出やひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰滲出が生じ、下部構造には著しい断面欠損が見られるとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
劣化原因	上部構造は中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化で、下部構造は外的要因で発生した断面欠損が流水のすりへりにより損傷が進行したと考えられる。					
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	更新（BOXカルバート）				
	実施予定時期	令和8年度に更新調査、令和9年度に更新工事の実施予定。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低いが、健全性が判定Ⅲであるため。			
対策費用(概算)	約25.6百万円					
管理方法	長寿命化対策として、BOXへの更新工事を行う。 コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2				6.3	19.3 (0.2)			
対策の内容・実施時期		点検				更新調査	更新工事 (点検)			

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321002	林道台帳索引番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線2号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	0.530 km	建設年度	1952年(S27)
供用年数	69年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.1m	幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日			
	調査結果	主桁に著しいうき・剥離・鉄筋露出が生じ、横桁及び張出床版にはひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰滲出が見られるとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	補修(断面補修等)			
	実施予定時期	令和9年度に補修調査、令和10年度に補修工事の実施予定。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低いが、健全性が判定Ⅲであるため。		
対策費用(概算)	約19.9百万円				
管理方法	長寿命化対策として、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					6.3 (0.2)	13.6		
対策の内容・実施時期		点検					補修調査 (点検)	補修工事		

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321003	林道台帳索引番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線3号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	1.000 km	建設年度	1952年(S27)
供用年数	69年	種別	R C橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.0m	幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	R C T桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日			
	調査結果	主桁に著しいうき・剥離・鉄筋露出が生じ、張出床版にはひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰滲出及び凍害による断面欠損(スケーリング)が見られるとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	補修(断面補修等)			
	実施予定時期	令和10年度に補修調査、令和11年度に補修工事の実施予定。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低い、健全性が判定Ⅲであるため。		
	対策費用(概算)	約16.4百万円			
管理方法	長寿命化対策として、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2	6.3	10.1	
対策の内容・実施時期		点検					点検	補修調査	補修工事	

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321004	林道台帳索引番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線4号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	1.290 km	建設年度	1952年(S27)
供用年数	69年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	平ノ沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m	幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月11日			
	調査結果	上部構造にうき・剥離やびわれからの錆汁を伴う遊離石灰滲出が生じ、下部構造には凍害による断面欠損(スケーリング)が見られるとともに、桁下や下部構造には橋面排水の漏水が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により進行した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低い、健全性が判定Ⅲであるため。		
	対策費用(概算)	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考



※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321005	林道台帳索引番号番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線5号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	1.760 km	建設年度	1953年(S28)
供用年数	68年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.4m(4.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	—		落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明		
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—			
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。						
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月5日					
	調査結果	外縁の主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出、ひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰等の損傷及び橋面排水の桁下や下部工への浸透が確認された。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。					
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。				
劣化原因	中性化の進行と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張かつ凍害を併発した劣化と考えられる。						
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度					
	内容	点検、維持（橋面等清掃作業）及び更新調査					
	実施予定時期	令和12年度に更新調査の実施予定。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低いですが、健全性が判定Ⅲであるため。				
対策費用(概算)	約6.3百万円						
管理方法	長寿命化対策として、BOXへの更新調査を行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。						

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2			6.3
対策の内容・実施時期		点検					点検			更新調査

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321006	林道台帳索引番号番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線6号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	2.750 km	建設年度	1953年(S28)
供用年数	68年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m	幅員(車道幅員)	4.2m(3.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台	基礎形式	不明
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月7日			
	調査結果	外縁の主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出、ひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰等の損傷及び橋面排水の桁下や下部工への浸透が確認された。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	中性化の進行と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張かつ凍害を併発した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持（橋面等清掃作業）			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	低	（優先度の考え方） 利用頻度等が著しく低いため。		
	対策費用（概算）	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
長寿命化対策としての補修は行わず、次回点検時に健全性が判定Ⅳとなった場合は撤去の方針とする。

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321007	林道台帳索引番号番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線7号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	3.050 km	建設年度	1953年(S28)
供用年数	68年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m	幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月7日			
	調査結果	外縁の主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出、ひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰等の損傷及び橋面排水の桁下や下部工への浸透が確認された。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	中性化の進行と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張かつ凍害を併発した劣化と考えられる。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持（橋面等清掃作業）			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	低	（優先度の考え方） 利用頻度等が著しく低いため。		
	対策費用（概算）	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
長寿命化対策としての補修は行わず、次回点検時に健全性が判定Ⅳとなった場合は撤去の方針とする。

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321008	林道台帳索引番号番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線8号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	3.180 km	建設年度	1954年(S29)
供用年数	67年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.1m		幅員(車道幅員)	4.3m(3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月6日				
	調査結果	外縁の主桁及び張出床版にひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰及び橋面排水の桁下や下部工への浸透が生じているとともに、橋台堅壁にはすりへり及び外的要因(流石の衝撃など)による断面欠損が確認された。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	III (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	上部工は中性化の進行と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張かつ凍害が併発した劣化、下部工はすりへり等による経年劣化であると考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が著しく低いため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
長寿命化対策としての補修は行わず、次回点検時に健全性が判定IVとなった場合は撤去の方針とする。

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321009	林道台帳索引番号番号	25	施設管理者	十和田市
路線名	片淵川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	片淵川線9号橋
施設の所在地	十和田市大字奥瀬字仙ノ沢	起点からの距離	3.630 km	建設年度	1954年(S29)
供用年数	67年	種別	RC橋	型式	T桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	片淵川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m		幅員(車道幅員)	4.4m(4.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	—		落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台			基礎形式	不明	
橋脚工型式	—			海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	片淵川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。						
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月6日					
	調査結果	外縁の主桁及び張出床版にうき・剥離・鉄筋露出、ひびわれからの錆汁を伴う遊離石灰等の損傷及び橋面排水の桁下や下部工への浸透が確認された。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。					
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。				
劣化原因	中性化の進行と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張かつ凍害を併発した劣化と考えられる。						
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度					
	内容	更新（BOXカルバート）					
	実施予定時期	令和11年度に更新調査、令和12年度に更新工事の実施予定。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等は低いですが、健全性が判定Ⅲであるため。				
対策費用(概算)	約25.6百万円						
管理方法	長寿命化対策として、BOXへの更新工事を行う。 コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面の清掃作業を適切に行う。						

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)		0.2					0.2		6.3	19.3
対策の内容・実施時期		点検					点検		更新調査	更新工事

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	220601	林道台帳索引番号番号	32	施設管理者	十和田市
路線名	色内線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	色内線1号橋
施設の所在地	十和田市大字法量字北向	起点からの距離	1.900 km	建設年度	1972年(S47)
供用年数	49年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.7m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	色内線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月11日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う局所的な腐食の進行が確認できる。コンクリート部材は、局所的な剥離・鉄筋露出や断面欠損が生じ、桁下端部や下部構造には橋面排水の漏水・滞水が確認できる。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始める期間で、安全性は十分確保されている状態と判断できるが、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	鋼部材は、湿潤環境及び漏水等により腐食劣化が進行し、コンクリート部材は、中性化による劣化が進行したと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が低く、健全性も判定Ⅱであるため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.2					0.2	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	321201	林道台帳索引番号番号	36	施設管理者	十和田市
路線名	湯ノ台線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯ノ台線1号橋
施設の所在地	十和田市大字法量字焼山	起点からの距離	0.400 km	建設年度	1970年(S45)
供用年数	51年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	淵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.4m(11.9m)		幅員(車道幅員)	4.8m(4.1m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	湯ノ台線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月29日				
	調査結果	鋼部材は、防食塗膜の剥離に伴う5割程度の腐食の進行が確認できる。コンクリート部材は、うき・剥離・鉄筋露出及びびびわれからの遊離石灰滲出が生じ、桁下や下部構造には橋面排水の漏水・滞水やA1橋台の河床洗堀が確認できる。現段階で加速期後期（劣化現象が加速的に進行する後半期）で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材は、湿潤環境及び漏水等により腐食劣化が進行し、コンクリート部材は、中性化と橋面排水の浸透による鉄筋の腐食膨張により劣化が進行したと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修（断面補修等）				
	実施予定時期	令和7年度に補修調査、令和8年度に補修工事を実施予定				
	施設の優先度	中	（優先度の考え方） 利用頻度等が一定程度あり、健全性が判定Ⅲであるため。			
	対策費用（概算）	約25.2百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			0.6		6.8	18.4		0.6		
対策の内容・実施時期			点検		補修調査	補修工事		点検		

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	424701	林道台帳索引番号番号	37	施設管理者	十和田市
路線名	西の沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	西の沢線1号橋
施設の所在地	十和田市大字法量字林ノ上	起点からの距離	0.010 km	建設年度	1972年(S47)
供用年数	49年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	中里川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	22.5m(22.1m)		幅員(車道幅員)	4.8m(4.1m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	西の沢線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や造林計画がある。 当該施設は財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月8日				
	調査結果	鋼部材の劣化は、全体的な点錆と局部的に表面的な腐食が確認できる。コンクリート部材の劣化は、張出床版部にうき及び剥離・鉄筋露出が5割程度に確認できる。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始めるが、安全性は十分確保されている状態と判断でき、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	鋼部材は、湿潤環境及び漏水等による劣化、コンクリート部材は、中性化の進行と雨水の浸透による鉄筋の腐食膨張による劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が低く、健全性も判定Ⅱであるため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			0.6					0.6		
対策の内容・実施時期			点検					点検		

備 考



個別施設整理番号	424801	林道台帳索引番号番号	38	施設管理者	十和田市
路線名	長根線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	長根線1号橋
施設の所在地	十和田市大字法量字相ノ窪	起点からの距離	3.230 km	建設年度	1989年(H1)
供用年数	32年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	熊の沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.5m(16.0m)		幅員(車道幅員)	4.7m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	長根線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による保育計画がある。 当該施設は、国有林林道と併用しているため、頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月8日				
	調査結果	鋼部材の劣化は、全体的に腐食の進行が著しいことが確認できる。コンクリート部材の劣化は、ひびわれ、剥離等の損傷生じ、地覆には外的要因(車両の衝突等)による断面欠損が確認できる。現段階で加速期後期(劣化現象が加速的に進行する後半期)で部材の耐荷力が低下し、安全性が損なわれている状態と判断でき、放置すると確実に劣化が進展することが見込まれる。また、防護柵にゆるみ等の損傷があるため第三者被害も懸念される。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	鋼部材は、湿潤環境及び漏水等による劣化、コンクリート部材は、中性化の進行と雨水の浸透による鉄筋の腐食膨張による劣化と考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	補修(断面補修等)				
	実施予定時期	令和6年度に補修調査、令和7年度に補修工事の実施予定。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 利用頻度等が高く重要な施設であり、健全性が判定Ⅲであるため。			
	対策費用(概算)	約25.1百万円				
管理方法	長寿命化対策として、鋼部材の塗装塗替え、コンクリート構造物の断面補修等を早期に行うとともに、適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			0.6	6.8	18.3			0.6		
対策の内容・実施時期			点検	補修調査	補修工事			点検		

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	220701	林道台帳索引番号番号	41	施設管理者	十和田市
路線名	第2長根線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	第2長根橋
施設の所在地	十和田市大字法量字相ノ窪	起点からの距離	7.585 km	建設年度	1984年(S59)
供用年数	37年	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和55年	橋格(設計荷重)	一等橋(TL-20)	橋下条件	熊の沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.5m(17.0m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	H形鋼(非合成)橋			
			鋼製(使用鋼材)	SMA50A, SMA41A	塗装使用の有無	無(耐候性鋼材)
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	第2長根線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による保育計画ある。 当該施設は森林所有者や財産区等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月5日				
	調査結果	主桁の耐候性鋼材に大きさ1~5mm程度の粗い錆を全体的に生じているとともに、表面処理剤の塗膜が部分的に剥離して変色している状態である。現段階で加速期前期(劣化現象が加速的に進行する前半期)で部材の耐荷力が低下し始めるが、安全性は十分確保されている状態と判断でき、放置すると劣化の進行が加速することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	鋼部材の劣化は、湿潤環境及び漏水等によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度~令和12年度				
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が低く、健全性も判定Ⅱであるため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			0.6				0.6			
対策の内容・実施時期			点検				点検			

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	424501	林道台帳索引番号	33	施設管理者	十和田市
路線名	館線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	館線1号橋
施設の所在地	十和田市大字沢田字上沢田	起点からの距離	0.015 km	建設年度	1969年(S44)
供用年数	52年	種別	RC橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢田川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5m		幅員(車道幅員)	3.8m(3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無	有
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	不明		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	館線の利用区域には、早期に整備すべき森林が存在している。林道沿いに民家や水田もあるため、当該施設は頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年8月9日				
	調査結果	上部構造にうき・剥離やひびわれが生じ、下部構造にもうきが生じている。現段階で、安全性が損なわれてはいないが、放置すると劣化が進展することが見込まれる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度				
	内容	点検及び維持（橋面等清掃作業）				
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が低く、健全性も判定Ⅱであるため。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。					

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.0					0.0	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備 考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙（個票）

個別施設整理番号	320101	林道台帳索引番号	10	施設管理者	十和田市
路線名	深持線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	深持線1号橋
施設の所在地	十和田市大字深持字梅家ノ上	起点からの距離	1.671 km	建設年度	1969年(S44)
供用年数	52年	種別	RC橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.2m	幅員(車道幅員)	4.5m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋		
			鋼製(使用鋼材)	不明	塗装使用の有無
		支承形式	—	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	不明	基礎形式	不明	
橋脚工型式	—	海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	深持線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在し、森林経営計画による伐採計画や保育計画がある。 当該施設は森林所有者や財産区等により利用されている。				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年9月24日			
	調査結果	下部構造にジャンカが生じているが、現段階で、安全性が損なわれてはいない。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	経年劣化			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和12年度			
	内容	点検及び維持(橋面等清掃作業)			
	実施予定時期	次回点検時に変状の確認を行う。			
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 利用頻度等が低く、健全性も判定Ⅱであるため。		
	対策費用(概算)	—			
管理方法	適正な時期に定期点検を行う。 また、コンクリートへの雨水等の浸透による経年劣化を抑制させるため、橋面や排水施設の清掃作業を適切に行う。				

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)				0.0					0.0	
対策の内容・実施時期				点検					点検	

備 考